



Eero



SKYPOD

はじめに

これは自動巻ムーブメントです。
竜頭が1の位置で巻き上げることができます。

時針の早送り

竜頭を2の位置に引き出し時計回りに回しますと分針や秒針が動くことなく時針が1時間ずつ早送りされます。時間を合わせた後、竜頭を1の位置に戻してください。

時間合わせ

時間を合わせる前に、この自動巻ムーブメントの精度を保証するために竜頭を手で20～30回程度巻いて頂くことを推奨します。そして時計をご使用していただく事により自動巻のローターが42時間のパワーリザーブいっぱいまで巻き上げてくれます。竜頭を3の位置まで引き出し、時計回りに針を動かしてもらい時間を合わせます。終わりましたら竜頭を1の位置に戻してください。

日付合わせ

日付を合わせるには竜頭を2の位置に引き出します。そして時計回りに回すと6時位置の日付ディスクが早送りされます。

ご注意ください : 時針が9時から3時の間にある時は日付合わせを行ってはいけません。

その場合は時針を3時から6時の間まで安全な時間まで進めてもらってから日付合わせをし、そして時間を合わせて頂いてから竜頭を1の位置に戻してください。



SKYPOD

GMTの調整方法 (Second Time Zone)

24時間GMT及びホーム時間の合わせ方は竜頭を2の位置に引き出し9時位置の24時間計をホームタイムの時間に合わせます。これでGMTのサブダイヤルは常にホームタイムを示します。日付はこのホームタイムと連動しますのでご注意ください。セットし終わりましたら竜頭を1の位置にお戻しください。

クロノグラフの使い方

スタートとストップは4のプッシュボタンを押してください。リセットは5のプッシュボタンになります。通常のクロノグラフの時計とは異なりプッシュボタンが時計の左側についておりますのでご注意ください。これはパイロットが腕に時計をはめたまま簡単に操作できるようになっています。



SKYPOD 計算尺の使い方

回転計算尺とは、ベゼルの回転により操作する「可動外周目盛」と、文字盤周囲に設けられた「固定内周目盛」からなり、それぞれの記された対数目盛によって計算結果を読み取ることが出来ます。

計算尺では桁は無視し、たとえば1、10、100などはすべて10で表されるため、数字の桁は適宜読み替える必要があります。

・計算の際に使用する箇所



A:計算尺回転用ノブ

このノブでインナーベゼルを回転させます。

B:10ポイント

固定目盛10の位置は掛け算や割り算の答えを求める際の基準位置となります。



計算の仕方 (例)

掛け算

12 × 7 を計算します



固定目盛の10ポイントに
回転目盛の12を合わせます



固定目盛の7と向き合う
回転目盛の数字を見ます

= 84

割り算

120 ÷ 16 を計算します



回転目盛の12 (=120) を
固定目盛の16に合わせます



固定目盛の10ポイントと
向き合う回転目盛の数字を
見ます

= 7.5

(*外側の数値を
1/10としたので
75を読み替えます)